

ランドスケープのちから

11. レガシー / 継承

株式会社ランドスケープデザイン

植野紉 / 吉田謙一

レガシーとランドスケープ ー時間と価値のデザイン

レガシーとは「遺産、業績、後世に残すもの」という意味で使われる言葉ですが、2000 年代初めのオリンピック・ムーブメントの一環として IOC が「レガシー」を開催都市決定プロセスに取り入れたことから広く一般化したように思われます。オリンピック憲章に記されたレガシーとは、社会に生み出される「持続的な効果」であり、有形でハードな実態だけでなく、新たな知見や社会のシステムなどソフト的な仕組み（価値の総体）でもあることが認識されています。このことからレガシーとは、「持続する効果」という価値を私たちの暮らす都市や社会に時間軸として持ち込む仕組みであり、時間をデザインに取り入れる思考の方法と考えられます。ランドスケープの計画は、悠久の時間の中で形づくられる地形地質、時間とともに移り変わる風景、時間とともに成熟する空間、時間とともに成長を続ける樹木などをデザインの対象として扱うことから、本来的に変化する「時間」を内包するデザインと言えますが、レガシーという視点はその中でどのような「価値」を時間軸として大切にし、共有していくのかを問うこととなります。

「九段会館テラス」は、東日本大震災による天井崩落事故のために閉鎖された旧九段会館の一部を保存・リニューアルをして新たに地上 17 階の複合ビルを加え、歴史建築と最新オフィスビルがレトロモダンのスタイルとして融合したプロジェクトです。そのランドスケープには旧九段会館の正面に芝生広場、バタフライガーデン、歴史の小径などを新たに設け、建築様式の持つオーセンティシティと建築装飾の繊細さに調和する屋外スペースを整備するとともに、牛ヶ淵沿いのお堀沿いテラスによって南北の隣接地をつなぎ水際に新たな人の流れを生み出しています。帝冠様式の屋根が縁取る 5 階屋上には屋上庭園が設けられ、新たなオフィスユーザーの働き方のニーズを満たすものとなっています。都心中心部で、様々な歴史をはらむ記憶と最先端のオフィスビルの共存の試みは、レトロモダンという時間軸のストーリーによって今後も都市文化の厚みとなるものと思われる。「ブルガリホテル上海」は、上海中心を流れる黄浦江の支流、外灘に近い蘇州河下流に位置する開発プロジェクトで、その最大の特徴は 1916 年に建設された商工会議所を再生して民間事業者が運営する PPP 事業にあります。用地と建物は上海市が所有

再開発において、スクラップ&ビルドではなく、歴史的建築などの「レガシー」を生かしながら地域価値創造を図る戦略は、SDGs をめざす成熟社会に相応しいやり方です。継承方法は、保存・復原・再現等さまざまですが、レガシーデザインの本質を保持しながら、耐震・防火を始めとした高度な要求性能を満足させる近年の建築技術の深化には、驚くばかりです。ランドスケープ分野では、もともと設計初期段階において、土地の歴史や自然環境、文化的記憶などを徹底的に調査することが定石となっており、まさに、地霊とも言える敷地レガシーに敬意を

払ってきたと言えます。とはいえ、物理的に残されたものはそれほど多くはなく、「レガシー／継承」を具現化するには、周到なストーリーが必要です。堀の一部や景石・灯籠、記憶に残る樹種や樹形、そして発掘された埋土種子など、敷地にわずかに残る要素を手掛かりに、時間の継承を表現する、というわけです。と考えると、建築レガシーこそ実は最も重要なランドスケープの要素だと気づきます。「レガシー」のオーセンティシティ（真正性）実現のために、建築家とランドスケープアーキテクトとの初期からの協働が、とても大切な所以です。（植野紉）

したまま、デベロッパーである華僑城が歴史的検証をもとに建物の復原を行い、ブルガリホテルがボールルームやレストランとして運営する仕組みの中で、ランドスケープは官民の用地・施設に境界をつくらず、計画地全体が一体となる空間構成を行っています。歴史建築に隣接する新設高層棟にはブルガリホテルとブルガリレジデンス、周辺低層棟には商業施設が設けられ、再生された楼門を含めて建築は分散した配置となっていますが、ランドスケープがそれらを繋ぎブルガリブランドの統合の役割を担っています。旧商工会議所と向き合う芝生広場には租界時代に好んで使われた樹木の中から樹齢の高い大径木を選び、歴史建築が積み重ねてきた時間を共有するランドスケープとすると同時に、蘇州河の水上交通で栄えたこの街の賑わいを、揺らぐ水面の舗装デザインとして写し取る試みをおこなっています。世界中の建築家がその作品の差異化のために新奇さやアイコニックさを競ってきた近年の中国ですが、中華民国時代に最も華やかで賑やかであった上海固有の時間軸が人々の記憶やプライドとともに街の価値を高めることを期待します。（吉田謙一）



長江最下流域にある蘇州河は流れが緩慢で水位が高い天井川となっているため、この街の人々にとって水面は常に生活のそばにあった。水運で栄え作られた商工会議所が、蘇州河の水面に映り込む姿として広場の舗装デザインとしている。



旧九段会館正面のオーセンティシティを大切にしながら、お堀沿いテラスへの入口となる九段広場



九段会館テラス

所在地：東京都千代田区 / 敷地面積：8,675.12 m²

建築設計：鹿島・梓設計工事監理業務共同企業体 / 写真：石黒写真研究所
ランドスケープ設計：プレイスメディア + Landscape Design inc.

登録有形文化財の旧九段会館を一部保存しながら建て替えが行われ、歴史的建造物の創建当時の貴重な仕様や素材を生かした保存・復原。新築部分は IoT を活用した最新鋭オフィスとなり、新旧融合のレトロモダンなデザインとなっている。



旧商工会議所前面の噴水広場には、建物立面を形どった床照明を設置



ブルガリホテル上海

所在地：中国上海市 / 敷地面積：20,727 m²

マスタープラン：フォスターアソシエイツ / 写真：張虔希
建築設計：現代都市建築設計院

上海市街地にあるかつての共同租界で、近年開発が遅れ一部スラム化していた地区での都市再生 50ha の開発計画の一部。事業者である華僑城は地区全体のマスタープランを描き、複数の用地を取得しながら開発を主導しており、ブルガリホテル上海はそのリーディングプロジェクト。